

学位授与番号	甲第 1716 号
学位授与年月日	平成 17 年 9 月 30 日
氏 名	近藤 悟
学位論文題目	Diagnostic value of serum EBV-DNA quantification and antibody to viral capsid antigen in nasopharyngeal carcinoma patients (上咽頭癌患者における血清 EBV DNA 定量とウィルス capsid 抗原に対する抗体の診断的価値)
論文審査委員	主 査 教 授 市村 宏 副 査 教 授 山本 悦秀 村上 清史

内容の要旨及び審査の結果の要旨

今回我々は、上咽頭癌患者において血清中 Epstein-Barr ウィルス(EBV) DNA 量について、台湾に代表される高頻度地域と日本に代表される低頻度地域においてリアルタイム定量 PCR を用いて比較を行った。EBV DNA 量値の 41 人の日本人上咽頭癌患者における中央値は 5450 コピー/ml であり、23 人の台湾人上咽頭癌患者における中央値は 2125 コピー/ml であった。両国間の患者背景に関して性、年齢、TNM 病期分類に関し有意差を認めず、また血清中 EBV-DNA 量に関しても有意差は認めなかった。日本台湾両群の上咽頭癌患者 64 人の血清中 EBV-DNA 値は対象群(非ホジキンリンパ腫患者 12 名、健常者 20 名、上咽頭癌を除く他の頭頸部癌患者 33 名)に比して有意に高値を認めた。

次に我々は 19 名の再発性上咽頭癌患者(11 人日本、8 人台湾)を 26 人の完全寛解に至っている患者と比較した。日本台湾上咽頭癌患者に有意な血清中 EBV-DNA 量の差は認めず、また両国間の性、年齢、病期分類に関しても有意差を認めなかったが、26 名の完全緩解患者に対して有意に高値を認めた。

Receiver-Operating-Characteristic 曲線を用い、EBV-DNA 量定量の感受性及び特異性を検討したところ、カットオフポイントは 6.87 コピー/ml であり感受性が 0.855、特異性は 0.885 であった。それらを EBV ウィルス capsid 抗原と比較したところ、EBV-DNA 量定量は有意に感受性、特異性ともに高い検査であることが判明した。また血清中 EBV-DNA 量定量は再発患者に関してもカットオフ値 60.3 コピー/ml、感受性 0.909、特異性 0.926 と高い診断能を示しやはりウィルス capsid 抗原に対する抗体より優れた検査法であることが判明した。これらの結果は EBV-DNA 量定量は上咽頭癌の代表的な腫瘍マーカーとして有用であると考えられてきた Epstein Barr ウィルス capsid 抗原に対する抗体検査よりも信頼のおける腫瘍マーカーである事が示唆された。またその有用性は上咽頭癌の高頻度領域、低頻度領域どちらでも有用であり、初診時再発時ともに有用であることが判明した。

以上、本論文は上咽頭癌の診断/治療、予後判定にも有用であることを示し、腫瘍ウイルス学に貢献する価値ある論文と評価された。